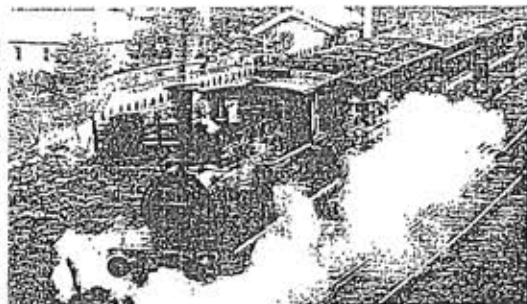


日本鉄道保存協会の 設立について

財団法人観光資源保護財団
(日本ナショナルトラスト)

事業課長 米山淳一

▶明治村 (同賞 椋生氏)



▲設立総会、壇上に並ぶ関係者 (撮影 伊藤栄一氏)

「鉄道ルネッサンス」とやらで鉄道が交通輸送の有効手段として見直され、次々に新しい車両が生まれ、若い女性の間でも話題になっていくという。また一方では、鉄道近代化の波の中で消えていったSLの復活運転も華やかにマスコミをにぎわしており、これに伴い歴史的な車両・施設・構造物への関心が高まりつつある。まさに、「鉄道復権」の動きがさまざまなかたちで輝き始めている。

このような情勢の中、去る四月九日日本鉄道保存協会が設立された。これは全国各地でSL、旧型客車、電気機関車、ディーゼル車他、歴史・文化的価値の高い車両を動態保存している団体が寄り集まって設立された、連絡協議会的性格を重視した団体である。モデルはイギリスの保存協会で、将来にわたる動態保存を進める上で今後重要な役割を担うことになる。

当日は、日ごろから熱心に動態保存を進める一二団体が全国から参加し、東京ステーションホテルで設立総会を開催、同協会の設立目的、性格、規約、役員の出選等が話し合われ、無事終了し設立の運びとなった。設立総会終了後は、お披露目を兼ねた記念イベントとして、「夢を乗せて走る歴史的鉄道車両」を開催。講演、参加団体の紹介、映画の上映を行

い会場から大きな激励を受けた。

◎設立までの経緯

明治村を先駆者とし、当トラストも含め、全国各地で鉄道を文化財の視点でとらえ、観光資源として保存・活用している事例が増えつつある。しかし、鉄道車両の保存は、鉄道に深い関心のある方々だけの趣味の世界にとらわれがちであるのも事実である。「鉄道文化財の保存」であると主張しても、まだまだ一般に言われる文化財のように市民権を得ているわけではない。確かに近代技術の発達史上においても鉄道は常にその時代の先端技術の集積という見方もあり、産業文化遺産のひとつであるという指摘がなされているにもかかわらずなのである。

このような状況の中で、全国で芽ばえ始めた動態保存が単に趣味的に終わってはいけないということで、一昨年二月九日に、当トラストが主催し第二回鉄道文化財を考えるシンポジウムを東京で開催した。この時点でも多くの動態保存の事例が見られ、北は急行ニセコ号C623号の北海道鉄道文化協議会から、南はあそBoyの58654号のJR九州まで一二団体が参加したのである。大きな反響を呼んだことは言うまでもないが、このシンポジウムの提案として出されたのが各団体が手をつなぎ将来にわたる動態保



▲Tトレイン (同 渡辺一男氏)

(組織)

(会費)

正会員(動態保存団体)100,000円
賛助会員(一般)100,000円以上

事務局

日本ナショナルトラスト
〒100 千代田区丸の内2-4-1丸ビル4-14
Tel 03-3214-1263(代)

顧問

小池 滋 (東京女子大学教授)
松澤正二 (前交通博物館副館長)

会計幹事団体

財団法人博物館明治村
九州旅客鉄道株式会社
青木栄一 (東京学芸大学教授)

代表幹事団体

大井川鉄道株式会社
丸瀬布町
丸瀬布町

日本鉄道保存協会正会員

(1991.4.1現在)

(団体名) (保存車両)

①丸瀬布町 (森林鉄道雨の宮21号蒸気機関車)

②三笠鉄道記念館 (S 394号SL)

③北海道鉄道文化協議会 (C 62 3号SL・SLニセコ号)

④甞れSLC10-8 運営協議会 (C 10 8号SL)

⑤ウエスタン村 (15321 ワウパウ号SL)

⑥埼玉県北部観光振興財団 (C 58 363号SL他・パレオエクスプレス)

⑦日本ナショナルトラスト (C 12 164号SL他・トラストトレイン)

⑧上松町 (森林鉄道86号ディーゼル機関車他)

⑨虹の郷 (アーネスト・トワイニング号SL他)

⑩大井川鉄道 (C 11 227号SL他・かわね路号)

⑪財団法人明治村 (尾西鉄道12号SL他)

⑫東海旅客鉄道株式会社 (クモハ12形電車他)

⑬なつかしの尾小屋鉄道を守る会 (尾小屋鉄道気動車 121号他)

⑭九州旅客鉄道株式会社 (58654号SL)

存を推進することを目的とした「日本鉄道保存協会」の設立だったのである。

一般に言われる文化財においては、歴史的町並みや民家等を中心に歴史的景観を保全する行政の集まりである歴史的景観都市連絡協議会、歴史的庭園の所有・管理者で構成する文化財指定庭園保護協議会、住民運動の集まりである全国町並み保存連盟などいくつかの連絡協議会的なものが機能している。こう見ると鉄道文化財と言う以上、同じような場をつくることは当然の成り行きであったと言える。ただ、初めてのこともあり、一気に設立では無理があるので、一年間は、「日本鉄道保存協会準備会」を仮に設け、試し運転とばかり、お互いの交流や情報の交換を行うとともに、手づくりの会報も発行してきた。

そして、昨年十月十四日の鉄道記念日に合わせ、大井川鉄道で同会の総会を開催。正式に平成三年四月から「日本鉄道保存協会」を設立し、活動を開始することを決定したのである。

◎末永く、楽しく動態保存を推進

現在、正会員は、予定も含め一二団体である。鉄道会社もあれば、公益法人、行政、住民運動団体とバラエティーにとんでいる。しかし将来にわたる動態保存をめざす意気込みは皆同じで、大きな夢も合わせ持っていることも確かだ。お互い単独で活動しては、どうしても弱い。特に資金・技術面は重要な問題となる。例えば、整備要員の育成、部品の確保など現実的な悩みも多いと聞く。記念イベント後の関係者の懇親会では、早くも各団体の担当者がかなり突っ込んだ技術面での話し合いをしている。

今後は、毎年総会を行うとともに、定期的に会報を発行し、また、多くの支援者を得るための啓蒙的な楽しいイベントの開催のほか、特にセミナー的な勉強の場も設けたい。さらに、先輩格の英国保存協会とも交流を考えている。まだまだ小さな輪が出来あがったばかりであるが、それこそ夢を乗せて走る歴史的鉄道車両の将来にわたる保存・活用をめざしたい。常に楽しさを忘れずに……。